

2. 今年度の成果と課題

2-1. 「若手の会、地権者への取組み」の成果と課題

取組み方針①：跡地利用に対する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。

取組み方針②：若手の会の定例会活動の充実及び自主活動による会の活性化を図る。

取組み方針③：地主会と若手の会との連携強化。

(1) 若手の会の定例会活動支援

【取組みのポイント】

アンケート調査の回収率を上げるための工夫や設問内容等について、地権者またはその子息等で構成される若手の会が、地権者の立場に立って検討を行う。

また、今後も若手の会の活性化を図っていくため、会としてどのような課題を抱えているか抽出した上で懇話会に投げかけるなど、今後の組織体制について検討を徐々に進めていく。

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●地権者の立場で、アンケート調査回収率向上のための検討を行った。

- ・アンケート調査を実施するにあたって、どうすれば回収率が向上できるか、どういう設問ならば答えやすいか等、地権者の立場で様々な検討を行い、設問内容等に反映した。

●現在抱えている課題の解決に向けて取り組む事ができた。

- ・懇話会において、現時点で若手の会が抱える課題について話し合い、挙がった意見を若手の会に持ち帰る事により、メンバー間で課題を把握し、解決に向けて取り組む事ができた。

【今後の課題】

●組織体制、組織拡大のための取組み方策について継続して検討する必要がある。

- ・会員の年齢層が上昇している事に伴う組織体制、組織拡大のための取組み方策について、今年度初めて検討を行った。しかし、より具体的な検討を進めていくためにはまだ時間を要する事から、今後も引き続き継続した検討を行っていく。

●地主会との連携をより強化していく必要がある。

- ・若手の会の自主活動の一環で、平成26年度より地主会三役との意見交換会を行っていたが、今年度は地主会との日程が合わないため実施できなかった。今後も自主活動の中で進めていくよう促していくと共に、地主会との連携をより強化し、跡地

利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

●若手の会を考える「跡地利用の理想像」について、引き続き検討を進める。

- ・今年度はアンケート調査や若手の会が現在抱えている課題についての議論が主となり、「跡地利用の理想像」に関する検討が充分なされなかった。次年度以降、これまでの若手の会の提言等を踏まえた「跡地利用の理想像」の検討が必要である。



写真：定例会のようす①



写真：定例会のようす②

(2) 字別意見交換会の開催

【取組みのポイント】

行政からの情報発信だけでなく、参加した地権者の意見を引き出し関心を高める取組みの一環として、これまでの直接的な対話の場であった「地権者懇談会」を平成 27 年度から「字別意見交換会」に変え実施してきた。

今年度は、跡地利用策定に向けた進捗状況の報告、アンケート調査の結果報告、若手の会の今年度の活動報告を行う事により、跡地利用計画に対する興味及び若手の会の活動に対する地権者の期待を促していく。

【概要】

○開催日：平成 29 年 2 月 15 日（水）、16 日（木）、20 日（月）、22 日（水）、26 日（日）

○内 容：①普天間飛行場跡地利用計画の策定状況について

②アンケート調査結果について

③普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告

④質疑応答、意見交換

表：「字別意見交換会」の開催日時、会場、対象地区、参加者数

開催日時	会 場	対象地区	参加者数
平成 29 年 2 月 15 日（水） 19：00～20：30	大山公民館	大山、伊佐、真志喜、大謝名	16 名 (5 名)
平成 29 年 2 月 16 日（木） 19：00～20：30	宜野湾区公民館	宜野湾、佐真下	20 名 (3 名)
平成 29 年 2 月 20 日（月） 19：00～20：30	喜友名公民館 2 階	新城、喜友名	20 名 (4 名)
平成 29 年 2 月 22 日（水） 19：00～20：30	宜野湾市社会福祉センター	野嵩、中原、赤道、上原、神山	22 名 (7 名)
平成 29 年 2 月 26 日（日） 14：00～15：30	宜野湾市農協会館 2 階 蘭の間	全地区	44 名 (5 名)
合計			122 名 (24 名)

※（参加者数について）上段：参加者総数

下段：参加者総数の内、若手の会からの参加者

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

- 地権者に対し跡地利用計画に関する内容等の情報を発信すると共に、地権者と意見交換を行う事ができた。
- ・地主会・若手の会と行政の協力及び役割分担によって「字別意見交換会」が開催され、参加した地権者に対し、跡地利用計画に向けた取組みや若手の会の活動内容等の情報を発信すると共に、参加した地権者と行政・地主会・若手の会で意見交換を行う事ができた。

【今後の課題】

- より多くの地権者が参加しやすい雰囲気づくりを継続して検討する必要がある。
- ・意向醸成活動を進めるにあたっては、より多くの地権者が参加し、意見を言いやすい雰囲気の意見交換会である事が望ましい。そのため、周知方法やテーマも含めた更なる検討が必要である。
- ・実施にあたっては、例えば過去の「地権者懇談会」で実施したような小規模のテーブル形式で開催するなど、テーマに応じた手法の検討が必要である。



写真：字別意見交換会のようす①



写真：字別意見交換会のようす②

(3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

【取組みのポイント】

地権者に対して、跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」の発行を行った。

なお、地主会未加入者も含めて、アンケート調査実施の周知及び結果報告、また、字別意見交換会の開催結果報告等を行った。

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●現時点における合意形成活動の取組み情報を発信できた。

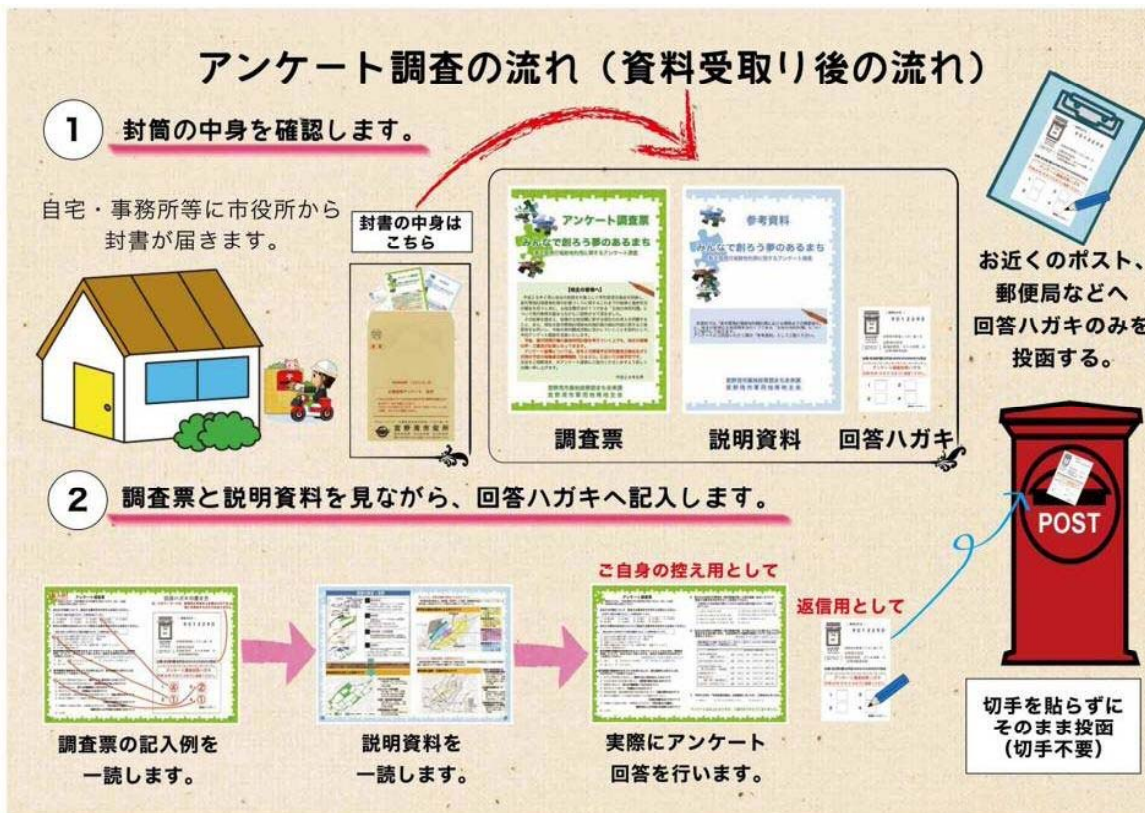
- ・地主会未加入者に対しても「ふるさと」を発行し、より多くの地権者に対して情報を発信できた。

【今後の課題】

- ・今後の計画づくりの進捗等も考慮しながら、時期を捉えた的確な情報発信を継続して行っていく必要がある。
- ・高齢の地権者も含めて、地権者全体に幅広く興味・関心を持ってもらえる情報発信媒体として、見易さ及び分かり易さの工夫など、継続して検討していく必要がある。



図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.44(表面)



図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.44(中面)

『若手の会』の参加者を募集しています！

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた地権者の検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。（毎月第2火曜日の午後7時30分より宜野湾市役所にて）地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることが出来ます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市役所基地政策部まち未来課までご連絡下さい。



地権者
支援
情報誌

ふるさと

Vol.45

3月

2017
March

発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

軍用地の民間売買を行う際に必要な届出の面積要件が変わります

平成29年4月1日より、普天間飛行場およびキャンプ瑞穂丸（西普天間住宅地区跡地）内の土地を民間（個人や不動産業者）に売却しようとするとき、面積の大小にかかわらず全ての土地に対して宜野湾市（まち未来課）へ「届出」が必要となります。

◆なぜ、届出制度が必要なのか

地方公共団体等が民間の取引に先立って優先的に交渉することによって、跡地利用に必要な公共用地（学校用地・道路用地など）を確保するためです。

◆手続きについて

民間（個人や不動産業者）に売却する前に、宜野湾市（まち未来課）へ土地有償譲渡届出書の提出が必要で、

※届出から最大6週間は民間への売却が制限されますので、早めの手続きをお願いします。

◆罰則規定

届出をしない土地を売却した場合等は、50万円以下の過料に処される可能性があります。

平成28年度 字別意見交換会を開催いたしました。

地主の皆様を対象といたしまして、昨年度に引き続き下記日及び内容で「平成28年度 字別意見交換会」を開催し、延べ122名の方にご参加頂きました。

字別意見交換会では、普天間飛行場跡地利用計画の策定状況のご報告、地権者アンケート結果のご報告とあわせ、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」から会の活動紹介と今年度の活動概要について説明を行いました。その後、ご参加頂いた皆様と意見交換を行いました。

開催日	時 間	会 場
2/15(水)	午後7時～8時30分	大山公民館
2/16(木)	午後7時～8時30分	宜野湾区公民館
2/20(月)	午後7時～8時30分	喜友名公民館 2F
2/22(水)	午後7時～8時30分	宜野湾市社会福祉センター
2/26(日)	午後2時～3時30分	宜野湾市農協会館 2F(隣の階)

◆字別意見交換会の内容

- 1) 普天間飛行場跡地利用計画の策定状況について
 - 1) 跡地利用計画の策定進捗状況
 - 2) プロモーションビデオの放映(平成27年度)
- 2) 地権者アンケート結果について
 - 1) アンケート結果報告
- 3) 普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告
 - 1) 若手の会の活動紹介と今年度の活動概要
- 4) 質疑応答、意見交換

字別意見交換会では、ご参加頂いた皆様から様々なご意見を頂きました。今後も皆様への情報発信と意見交換の場を継続して取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解ご協力の程宜しくお願いいたします。（ご参加頂いた皆様からのご意見ご質問の一部を裏面でご紹介します。）




【大山公民館(2/15開催)】
【農協会館(2/26開催)】

平成29年度も普天間飛行場跡地内土地の先行取得事業を実施します

宜野湾市と沖縄県は、普天間飛行場跡地のより良いまちづくりを進めることを目的に、学校用地(市)や道路用地(県)の確保のため、平成29年度も普天間飛行場跡地内土地の買取りを実施します。市・県に売却した場合、譲渡所得等については最高5,000万円までの特別控除の対象となります。（国税事務所との協議により特別控除を受けられない場合もあります）

◆受付場所 まち未来課

◆ご準備いただくもの

- ①印鑑（認印でも可）
- ②本人確認書類（免許証等）
- ③土地賃借料算定調査書及び土地明細書（最新のもの）

◆受付期間

第一期：4月3日(月)から 6月30日(金)

第二期：7月3日(月)から 8月31日(木)

第三期：9月1日(金)から 10月31日(火)

※受付期間外でも、事情に応じて可能な限り対応いたしますので、まち未来課までご相談ください。



【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野良一丁目1番1号
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を添へる場としてお気軽にご活用ください。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.45(表面)

平成28年度 字別意見交換会でいただいた 主なご意見ご質問を紹介します。

【普天間飛行場跡地利用計画に関する事項】

- ・配管方針の案としては良いと思うが、軍港移設の話が出ているため国道58号が渋滞すると思うので、道路をもう1本、大山から東に向かう道路を整備して欲しい。
回答 現在は主要な道路のみを記載しているため、細かな道路については、今後詰めていく事になります。
- ・中部縦貫道路など、確定している部分は早目に計画を固めて目に見えるようにして頂きたい。
回答 中部縦貫道路は、西普天間住宅地区跡地を通らない事が確定しており、現在国・県の方で見直し予定で。計画を早目に固めていくよう、今後も取り組んで参りますのでご理解ご協力の程お願い致します。
- ・普天間飛行場の現地調査の進捗について教えて頂きたい。
回答 現在、基地内への立ち入り困難な状況です。立ち入りできるように、今後も継続して調整していきます。

【アンケート結果に関する事項】

- ・地権者の意向は、アンケートで把握していく事になるのか。
回答 地主会のご意見やアンケート調査結果等も踏まえて、把握していく事になります。
- ・今回の回収率は30%という事であるが、30%で「地権者の意向」となるのか。
回答 統計学上は信頼度があるという事になりますが、しかしそれが全地主の皆様のご意向なのか、と言われれば当然そうではありません。跡地利用計画を進めていく上では地主の皆様の意向が必須となって参りますので、今以上に皆様のご意向を把握した上で、計画を検討していく必要があるものと考えています。今後もアンケートを実施させて頂くことになると思いますが、ご協力の程お願い致します。

【ご自身の土地に関する事項】

- ・減歩率は一律なのか、地勢など地理的な影響を受けて変わるのか。
回答 従って土地収用事業を実施する場合、種々に減歩が発生します。減歩率は土地の増進の程度により決まるので、全戸一律という訳ではありません。
※減歩で土地の面積は減りますが、減歩された土地は新しくまちをつくるのに必要となる道路・公園等の用地として活用され、まち全体の価値は全体的に上がります。また、減歩により土地所有の所有する土地の総面積は変わることはありません。

「字別意見交換会」は、今後も地主の皆様との意見交換の場として引き続き開催していければと考えております。今回御事情によりご参加頂けなかった方も、次回以降機会がございましたら、ぜひご参加下さいようお願い申し上げます。

先進地視察の概要についてご報告します。

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」と「わたのまちベースミーティング（以下、NBミーティング）」は、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化などを目的として、先進地視察を実施しました。

今年度は、「防災のまちづくり」と「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」の2つをテーマとして、宮城県石巻市と宮城県仙台市を訪れました。

【実施日】
平成28年11月24日(木)～26日(土)

【視察テーマ及び視察先】

- ◆防災のまちづくり（宮城県石巻市）
- ◆エリアマネジメントによるまちの魅力づくり（宮城県仙台市）

石巻市の復興現場のようす



仙台市内まちあるきのようす



エリアマネジメントの勉強会



防災のまちづくり

東日本大震災により大きな被害を受けた石巻市の震災復興地区を訪ねました。そこでは、巨大な防潮堤だけではなく、道路を高く盛って津波の第2防潮堤代わりにしたり、海岸沿いの漁業集落を高台へ住宅を集団移転させるなど、防災のまちづくりならではの具体的な取り組みを視察する事ができました。

また、震災前後における地域住民の防災意識の変化やまちづくりに対する考え方の変化等について、色々と話を伺う事ができました。

エリアマネジメントによるまちの魅力づくり

産官学民の協働・連携を図り、持続的なまちづくりを推進することを目的として設立された、「仙台駅東エリアマネジメント協議会」を訪ね、まちの価値を高めていくための取り組みについて学びました。

元々の協議会発足の経緯や現在の組織構成、継続した取り組みを続けていく事によって徐々に信頼を得る事の重要性や広い歩道空間を使ったイベントの開催など、これまでの様々な取り組みについて話を伺う事ができました。

※ 昨年10月に実施したアンケート調査につきましては、同封しております
「普天間飛行場跡地利用に関するアンケート調査 報告書(概要版)」をご覧ください。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.45(中面)

9

2-2. 「NB ミーティング、市民などへの取組み」の成果と課題

取組み方針①：跡地利用に関する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。

取組み方針②：NB ミーティングの活動を今後進めていく上での、基礎固めを行う。

取組み方針③：継続的に検討の場に参加する市民の掘り起しを行う。

取組み方針④：市外、県外への情報発信に向けたホームページの更新。

(1) 「NB ミーティング」の活動支援

【取組みのポイント】

NB ミーティングは設立 10 年を迎え、約 30 名の会員が在籍するが、定例会参加者数は年々減少傾向にあり活発な議論や意見交換が難しい状況となっている。また、定例会では NB ミーティングの位置づけなどを中心とした議論が多くなっている。

そこで、今年度は NB ミーティングの目的など基礎的な部分や今後の方向性について共有化を図り、会員を増やす事について検討を進めるなど組織として機能できるような基礎固めに重点を置いた取組みを進めるものとする。

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●活動方針の共通認識を図る事ができた。

- ・NB ミーティング発足の原点に立ち戻って組織の目的を再確認した上で、「跡地利用に対する市民の声を多く受けてとりまとめを行い、跡地利用計画に対して情報発信を行う」という共通認識を図る事ができた。
- ・今後の取組み等について意見交換を行っていく中、定例会参加者の増加を目指して、広報活動計画を立てるなど、NB ミーティングの主体性向上に繋がった。

●企画を通じて学生や市民と交流し、NB ミーティングとして「市民の声」を集約する事ができた。

- ・今年度実施した企画（過去と未来の語り場、NBM まちづくり分科会）を通じ、企画に参加した学生や市民と交流する事で、跡地利用への意見や意向醸成に繋がる提案を吸い上げ、NB ミーティングとして「市民の声」を集約する事ができた。

【今後の課題】

●継続して定例会参加者を増やし、議論の活性化を図っていく取組みが必要である。

- ・新規会員の獲得に繋げるため、会員と地域との繋がりを活かした取組みを行い、議論の活性化に繋げていく事が必要となる。

●組織の基礎固めを進めていく必要がある。

- ・現在、メンバー間で興味を持つ分野に相違がみられるため、各分野に別れて議論を分けて行うための仕組みづくりなど、今後も継続して組織の基礎固めについて議論を行い、十分に機能できるようにしていく必要がある。また、メンバーに関しても、例えば正会員とメール会員など将来的にメンバーの種別区分を設ける事も視野に入れておく必要がある。

●知識の積み上げや目標設定など、充実感を得られる仕組みづくりの構築を進める必要がある。

- ・今年度検討テーマとして「組織」と「企画」を多く取り上げたが、跡地利用計画策定に向けた取組みへの理解や計画に対する具体的な意見を提案するなど今後は「計画」「学習」分野の時間を増やし、知識の積み上げを行う必要がある。
- ・今年度は会としての共通の方向性「市民の声を集める」事に向け、イベントを通して意見を集め、NB ミーティングとして集約する事ができた。今後は集約した意見の具体的な提案・提言のとりまとめ方や発信先などの検討を行い、最終的な目標を設定し、会員一人一人が充実感を得られる仕組みづくりの構築を進めていく事が必要となる。

●イベントの継続的な実施に向けた取組みを検討する必要がある。

- ・今年度のイベントとして、「過去と未来の語り場」を実施したが、イベント終了後のアンケートでは「定期的に継続して企画してほしい」「13 字へと繋げてほしい」と継続を要望する声があがっている。
- ・イベントの実施については、会としても内容を事前に理解した上で臨む必要がある事から、会の主体性を向上させていくための取組みの1つとしても期待できる。また、同じ市民の立場から説明を行う事で、更なる跡地利用計画に対する関心啓発や跡地利用に繋がる意見収集を促す可能性が期待できる。



写真：定例会のようす



写真：「過去と未来の語り場」座談会のようす

(2) 若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催

【取組みのポイント】

跡地利用に対する市民の関心向上を図るきっかけづくりとして、「市民が参加しやすい取組み方法・手段を考える」事をテーマとした「NBMまちづくり分科会」を開催し、市民の跡地利用に対する関心の醸成を図る事と併せ、NB ミーティングの活動周知及び新規メンバー獲得を図る。

【概要】

参加者（市民）を5分野（観光、自然/農業、歴史、景観、福祉）にグループ分けし、各分野の知識と経験を持った関係者や将来のまちづくりを担う大学生（各分野専攻）、NB ミーティングで企画の素案作成に向けて意見交換を行った。なお、参加者に対しては事前研修を2回実施し、本企画に参加する意義や現在の跡地利用計画に関する知識の理解や習得を図った上で当日に望んだ。

●事前研修1回目

- 開催日時：平成29年2月1日（水） 18：30～21：00
- 開催場所：宜野湾市役所別館3階第一会議室
- 内 容：①NB ミーティングの紹介
 - ②普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明
 - ③座談会（大学生が普天間飛行場跡地のまちづくりを考えることの意義）
- 参加者：9名（大学生4名、分野関係者5名）

●事前研修2回目

- 開催日時：平成29年2月11日（土） 13：00～15：00
- 開催場所：宜野湾市役所別館3階第一会議室
- 内 容：①NB ミーティングの紹介
 - ②普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明
 - ③分野代表学生から素案発表
 - ④分野毎で意見交換
- 参加者：13名（大学生5名、分野関係者8名）

●当日

- 開催日時：平成29年2月25日（土） 13：00～17：00
- 開催場所：宜野湾市社会福祉センター
- 内 容：①普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明
 - ②各分野代表学生による提案（9名）
 - ③大学生の提案に対して分野別参加者を交えたディスカッション
- 参加者：31名（大学生9名、一般参加者22名）

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●市民の跡地利用計画に対する啓発に繋がった。

- ・終了後に参加者に対して実施したアンケート（以下、参加者アンケート）では、約90%の方が、「NB Mまちづくり分科会に参加して満足した」、「普天間飛行場返還後のまちづくりを考えるキッカケとなった」と回答した。
- ・市民を巻き込んだ対外的な取組みの実施によって、市民が跡地のまちづくりを考えるきっかけづくりに繋がった。
- ・2回の事前学習会を通して、跡地利用に繋がる知識や情報を事前に習得した上で大学での専攻知識と融合させ、跡地利用について考える取組みを行う事ができた。
- ・自発的に学生がNB ミーティング定例会に参加し共にフィールドワークを行うなど、NB ミーティングとの交流にも繋がった。

●市民参加型によるまちづくり検討の土台作りに繋がった。

- ・参加者アンケートでは、約80%の方がNB ミーティングの会議参加（見学）を希望すると回答した。
- ・各分野の提案発表とその内容に対する質疑応答が行われ、提案の課題や改善策が得られた事で、継続した検討に繋げる事ができた。

●NB ミーティングの活動に直結する成果に結びついた。

- ・NB ミーティング定例会での議論を通して、会としてやりたい事や目的を絞り込み次年度以降に繋がるテーマ設定ができた。

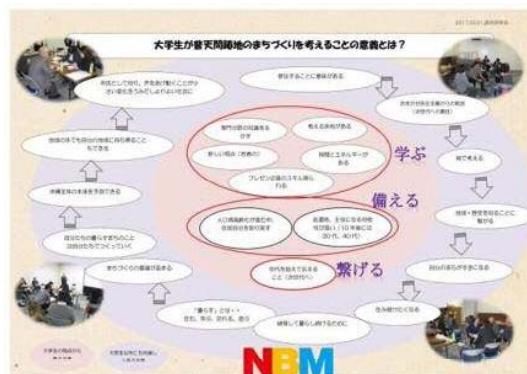
【今後の課題】

●効率的な実施体制の検討が必要である。

- ・参加者については、学生、分野関係者以外の一般参加者の数が少なかった。今後、より多くの市民を集めて効率的な実施体制で「まちづくり」に対する啓発活動を行っていく事が必要となる。



写真：ディスカッションのようす
(事前研修 1 回目)



図：「大学生が普天間跡地のまちづくりを考えることの意義」取りまとめ表
(事前研修 1 回目)



写真：大学生の提案発表のようす
(事前研修 2 回目)



写真：分野関係者からアドバイスを受ける
ようす (事前研修 2 回目)



写真：大学生の提案発表のようす



写真：分科会のようす

(3) まち未来だよりの作成・発行

【取組みのポイント】

市民を対象とした情報誌「まち未来だより」による情報提供を行い、情報発信媒体としての確立を図る。また、跡地利用に向けた現在の進捗状況等に関する情報提供を行うとともに、NB ミーティングの認知度向上に向けた活動の周知等を行う。

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●跡地利用に向けた取組みに関する情報を提供。

- ・全体計画の中間とりまとめや、市民のまちづくり機運醸成を目的に実施した「過去と未来の語り場」「NBMまちづくり分科会」の内容などを掲載し、跡地利用に向けた取組みに関する情報提供ができた。

●視覚的な見やすさの向上と、より広範囲への情報発信が可能となった。

- ・「まち未来だより」のサイズを A4 から A3 にした事で、多くの内容を盛り込めた。また、文字による情報提供だけではなくイラストや図の活用など工夫する事で、読み易い情報誌となった。
- ・これまでは自治会加入世帯のみの配布で、多くの世帯に届いていないという課題があったが、今年度からは全戸配布となり多くの市民への情報発信が可能となった。

【今後の課題】

- ・市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、今後も継続して発行する必要がある。
- ・より良い跡地利用の実現に向けては、周辺市街地と合わせた整備が必要となる事から、今後は「まちづくり分科会」のような市民のまちづくり機運向上を目指した取組みを積極的に展開していく必要がある。そのため、情報誌を通じた開催案内や活動結果の報告等を行う事で、市民の参加・協力を促していく事が求められる。



図：「まち未来だより」Vol.5（表面）



図：「まち未来だより」Vol.5（中面）

(4) ホームページの更新

【取組みのポイント】

市外・県外に対して広く普天間飛行場跡地利用に関する取組み状況等を周知するため、跡地利用に係る行政側からの情報や若手の会、NB ミーティングの活動状況等の情報をまち未来課のホームページに掲載、更新を行った。

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●幅広い情報提供に繋がった。

- ・ホームページ上での情報提供によって、市内の地権者や市民はもちろんの事、市外・県外の地権者や関心を持った住民等に対し、普天間飛行場跡地利用に関する取組み状況等を発信する事ができた。

【今後の課題】

- ・市外、県外の地権者を始めとする幅広い対象者へ、継続的に情報提供を行っていくため、ホームページを媒体とした情報発信を継続する必要がある。
- ・高齢の地権者も含めた誰もがホームページ上で必要とする情報を閲覧出来るよう、分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後検討が必要である。

2-3. 「跡地利用計画（素案）策定に向けた地権者の意向把握」の成果と課題

取組み方針①：回収率向上を図る取組みの実施。

取組み方針②：地主会未加入者の意向も把握する。

（1）土地活用意向調査の実施・集計

【取組みのポイント】

現在の普天間飛行場跡地利用計画の検討内容に関する意見や現時点における地権者の土地活用に関する大まかな意向を把握する事を目的として、アンケート調査を実施した。

実施するにあたっては、今回から地主会未加入者も対象とし、広く地権者の意向を把握する。また、アンケート調査票については分かりやすく、回答しやすい工夫を行うと共に、回収率を上げていくため地主会とも連携を取りながら進めていく。

【実施概要】

（調査対象）

- ・ 普天間飛行場の全地権者（海外在住者などを除く）

（実施時期）

- ・ 配 布：平成 28 年 9 月 30 日発送
- ・ 回収期限：平成 28 年 12 月 31 日（消印有効）

（配布・回収方法）

- ・ 郵送による配布回収
- ・ 郵送後、2 会場でアンケート説明会を開催し、会場内で回収を行った。

【アンケート説明会】

開催日時	会 場	参加者数	回収数
平成 28 年 10 月 6 日（木） 19：00～20：00	宜野湾市立中央公民館	46 名	13 件
平成 28 年 10 月 10 日（月） 14：00～15：00	宜野湾マリン支援センター	19 名	7 件

- ・ 12 月に全地権者に対し礼状兼アンケート調査協力依頼文を送付した。

（配布・回収状況）

配布数	回収数	回収率
3,968 (内、市内 2,617)	1,204 (内、市内 728)	30.3% (内、市内 27.8%)

(平成 29 年 1 月 4 日集計)

(参考 平成 15 年度及び平成 23 年度アンケート調査回収状況)

年度	配布数	回収数	回収率
23	3,128	1,051	33.6%
15	2,470	1,729	70.0%

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

- 若手の会や懇話会の意見を踏まえて、地権者が回答しやすいアンケート調査票を作成した。
 - ・地権者の目線で回答しやすい工夫を行う事により回収率の向上につなげていくという考えのもと、アンケート調査票の設問や回答の仕方などについて懇話会や若手の会で検討を進める事により、回答しやすいアンケート調査票を作成した。
- 地主会未加入者も含めた意向を把握する事ができた。
 - ・地主会未加入者の意向も踏まえてアンケート調査を実施する事により、これまでより広く地権者の意向を把握する事ができた。
- アンケート集計結果に対する考察を行い、現時点における大まかな意向として取りまとめる事ができた。
 - ・過去に実施したアンケート集計結果との比較等を行う事により、地権者の意向の推移や年齢別の意向の差異等、現時点における地権者の大まかな意向を把握し取りまとめる事ができた。

【今後の課題】

- 回収率向上のための取組みを今後検討していく必要がある。
 - ・回収率を上げるために、今回のアンケート調査は過去のものとは異なり、無記名式でかつ簡略化したもので実施したが、回収率は約 30%という結果であった。
 - ・今後、跡地利用計画がより具体化していく事に伴い、アンケート調査も継続して実施される事になる。その際に地権者の意見を多く集められるよう、回収率向上のための取組みを今後検討していく必要がある。
- 地権者が自身の土地の所在等についてイメージしやすい工夫を行う必要がある。
 - ・自身の所有する土地が普天間飛行場内のどこにあるのか、また、将来その土地がどうなるのか、地権者自身がイメージしやすい工夫を行う事でアンケートに回答しやすい状況を作り上げていき、地権者の意向を吸い上げていく必要がある。

【調査結果（抜粋）】

集計結果についての注記

- ・割合（パーセンテージ）を示すグラフでは、端数処理を行い小数点第 1 位まで表示している。そのため、表示している各割合の合計が 100%にならないグラフがある。
- ・各グラフは、その表現目的により、「無回答」カテゴリを省いたり、複数のカテゴリをまとめたりしている。そのため、同設問・同カテゴリであっても、その割合やサンプル数が異なる場合がある。

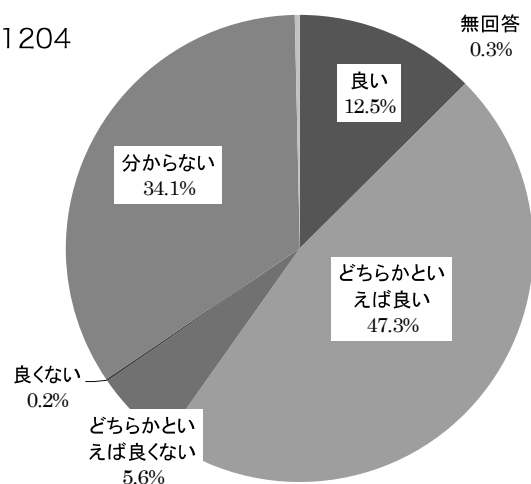
①「全体計画の中間とりまとめ」配置方針図について

問. 普天間飛行場跡地利用の将来のまちづくりのイメージとしてまとめた「配置方針図」について、あなたはどのように思いますか。該当する番号を次の中から 1 つお答えください。

- ①良い ②どちらかと言えば良い ③どちらかと言えば良くない
④良くない ⑤分からない

■配置方針図についての単純集計 回答数＝1204

回答内容	回答数	構成比
良い	151	12.5%
どちらかといえば良い	569	47.3%
どちらかといえば良くない	67	5.6%
良くない	2	0.2%
分からない	411	34.1%
無回答	4	0.3%
計	1204	100.0%



【集計結果】

- ・「良い」と「どちらかと言えば良い」の合計は約 60%であり、対して「分からない」が 34.1%であった。

【考察】

- ・この設問は、アンケート調査説明資料をご覧頂いた上でご回答頂く構成としており、比較的肯定的な回答が多い結果（約 60%）となった。しかし、「分からない」（34.1%）が 2 番目に多く、理由として計画内容の具体的なイメージが掴みにくい事などが考えられる。今後、更なる内容検討を進めながら地権者へ分かり易く周知を図る必要がある。

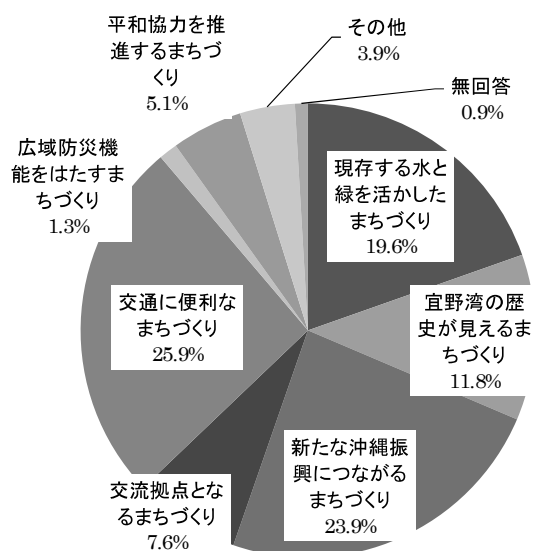
②将来のまちづくりを考える上での重要項目について

問. 普天間飛行場跡地利用のまちづくりを考える上で、最も重要だと思うことを、次の中から一つお答えください。

- ①地下水や既存樹林の保存など、現存する水と緑を活かしたまちづくり
- ②文化財の保全や並松街道の再生など、宜野湾の歴史が見えるまちづくり
- ③産業等の創出など、新たな沖縄振興につながるまちづくり
- ④県内外から人が集まる、交流拠点となるまちづくり
- ⑤中部縦貫道路・宜野湾横断道路や鉄軌道等の導入など、
交通に便利なまちづくり
- ⑥県内外の避難所としての機能や物資受入れの機能を有するなど、
広域防災機能を果たすまちづくり
- ⑦沖縄戦や土地接収の歴史、米軍基地の存在を伝え、
平和を尊ぶ心を醸成し、国際交流による平和協力を推進するまちづくり
- ⑧その他

■重要項目についての単純集計 回答数＝1204

回答内容	回答数	構成比
現存する水と緑を活かしたまちづくり	236	19.6%
宜野湾の歴史が見えるまちづくり	142	11.8%
新たな沖縄振興につながるまちづくり	288	23.9%
交流拠点となるまちづくり	91	7.6%
交通に便利なまちづくり	312	25.9%
広域防災機能を果たすまちづくり	16	1.3%
平和を尊ぶ心を醸成し、国際交流による平和協力を推進するまちづくり	61	5.1%
その他	47	3.9%
無回答	11	0.9%
計	1204	100.0%



【集計結果】

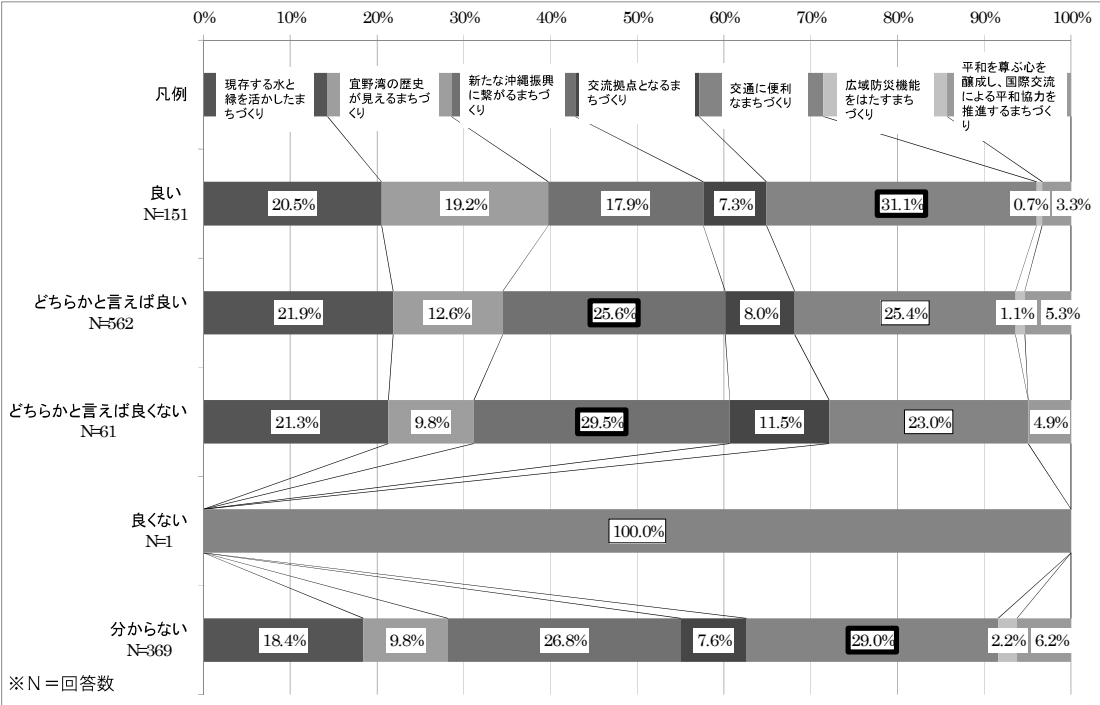
- ・「交通に便利なまちづくり」(25.9%) が最も多く、次いで「新たな沖縄振興につながるまちづくり」(23.9%)、「現存する水と緑を活かしたまちづくり」(19.6%) であった。

【考察】

- ・市の中心に普天間飛行場がある事で回り道をしないと目的地まで辿り着けない、渋滞が発生するなど現状の交通事情に不便さを感じている方が多く、返還後は交通問題の解消を望んでいると考えられる。また、「新たな沖縄振興」については、産業発展による経済活性化や宜野湾市が更に賑わいのあるまちになる事、また土地活用の一環として「貸した

い」(自分で貸したい／共同で貸したい)と望んでいる事などが考えられる。

■配置方針図の印象別に見た、まちづくりを考える上での重要項目



※その他、無回答は除外

【集計結果】

・配置方針図について「良い」(N=151)「良くない」(N=1)「分からない」(N=369)と答えた方は、普天間飛行場跡地のまちづくりについて「交通に便利なまちづくり」が最も重要と答えた割合が多かった。また、「どちらかと言えば良い」(N=562)「どちらかと言えば良くない」(N=61)と答えた方は、「新たな沖縄振興に繋がるまちづくり」が最も重要と答えた割合が多かった。

※ N = 回答数

【考察】

・配置方針図の印象にかかわらず、交通利便性の向上・新たな沖縄振興を望む方の割合が多いものの、「現存する水と緑を活かしたまちづくり」が最も重要と答えた方は、「良くない」を除くすべての項目で約 20%であり、自然環境に配慮したまちづくりの必要性も窺えた。

・「歴史」「交流拠点」についても重要であると考えている方が各項目毎（「良くない」を除く）で一定の割合(約 10%)を占めているが、「広域防災機能」「平和協力」については 10%未満であり、内容の分かりづらさや十分に周知されていない事などが推察される。

③土地活用意向について

問. あなたはお持ちの軍用地（普天間飛行場）を今後どのように使いたいですか。該当する土地の使い方の、土地活用を行う面積の割合について、○をつけてお答えください。

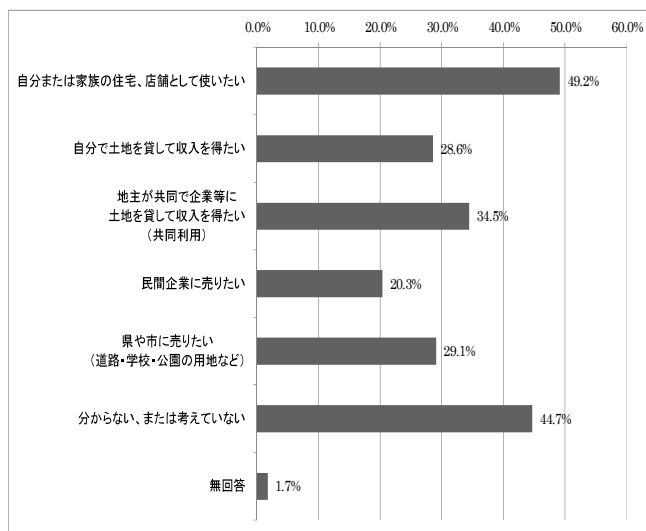
（複数回答可）

- ①自分または家族の住宅、店舗として使いたい ②自分で土地を貸して収入を得たい
③地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい（共同利用）
④民間企業に売りたい ⑤県や市に売りたい（道路・学校・公園の用地など）
⑥分からない、または考えていない

面積の割合：全部、3分の2、半分、3分の1以下、決めていない

■土地活用意向の単純集計 回答数＝2505

回答内容	回答数	構成比
自分または家族の住宅、店舗として使いたい	592	49.2%
自分で土地を貸して収入を得たい	344	28.6%
地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい（共同利用）	415	34.5%
民間企業に売りたい	245	20.3%
県や市に売りたい（道路・学校・公園の用地など）	350	29.1%
分からない、または考えていない	538	44.7%
無回答	21	1.7%
計	2505	



※複数回答のため、回答者 1,204 名に対し回答数 2,505 となっている。

※構成比＝回答数／回答者数

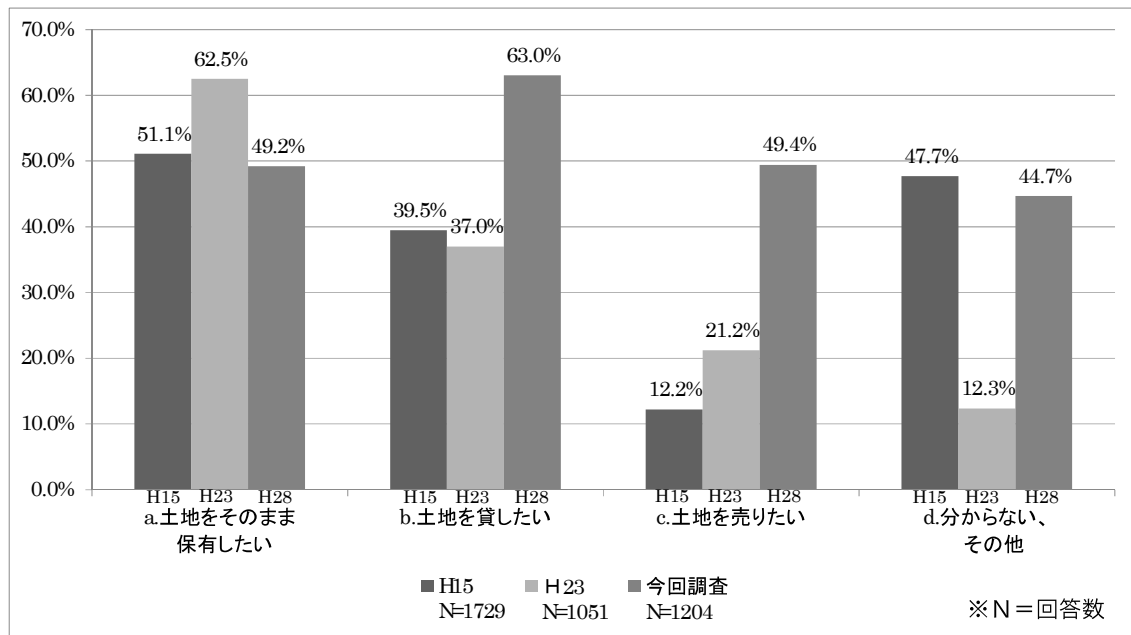
【集計結果】

- ・「自分または家族の住宅、店舗として使いたい」（49.2％）の回答が最も多く、次いで「分からない、または考えていない」（44.7％）、「地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい」（34.5％）であった。

【考察】

- ・この設問は所有面積に対する活用したい面積割合も合わせて伺っているが、土地の活用方法のみに着目すると、普天間飛行場返還後に自分または家族のために住宅（店舗）を建てて生活したいと望む方が多い一方で、返還時期や所有する土地の現状などが見えない中で考えを保留する方も多いことから、返還が間近になり土地活用に関する情報が増えてきたタイミングで、活用方法を決定していくものと推察される。

■調査時期別に見た土地活用意向の推移



注) 調査時期により選択肢の表現方法が若干異なるため、下表のように H23 年度時点アンケートの表現方法に統一し集計を行った。

凡例 (H23 アンケートと同一表記)	H15 アンケートに おける表記	今回のアンケートに おける表記
a. 土地をそのまま保有したい	自己住宅、自己店舗、自己農地	自分または家族の住宅、店舗として使用
b. 土地を貸したい	賃貸住宅、商業ビル、土地賃貸	土地を貸して収入を得る、共同利用
c. 土地を売りたい	土地売却	民間企業への売却、県や市に売却

【集計結果】

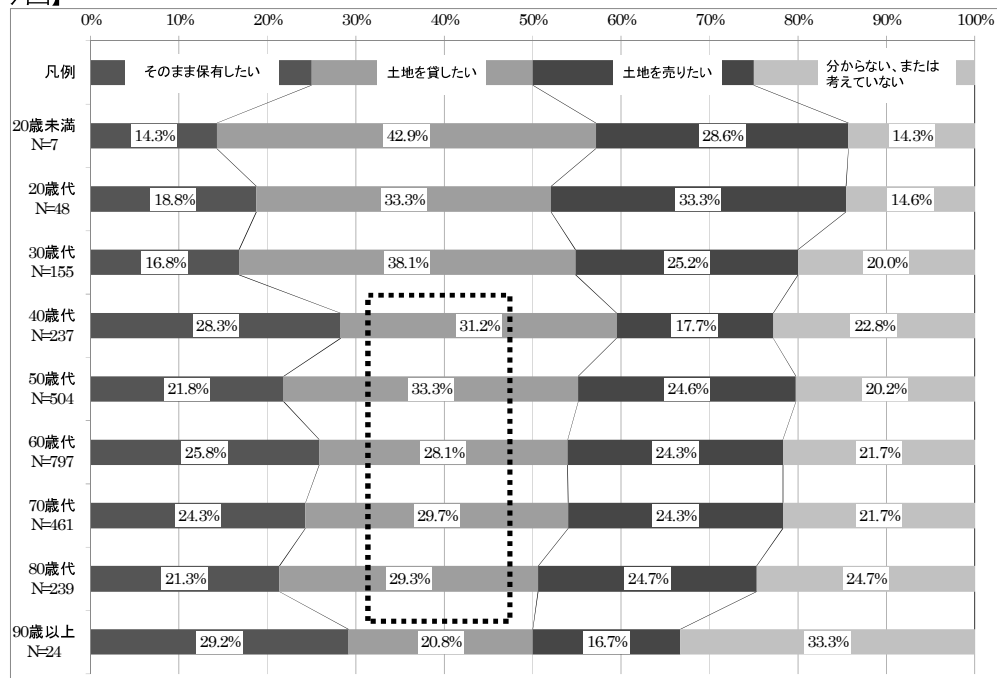
- ・「土地を貸したい」「土地を売りたい」「分からない、その他」意向は、平成 23 年度時点と比べ増加している。
- ・「土地をそのまま保有したい」意向は、平成 15 年度、平成 23 年度時点よりも少なかった。

【考察】

- ・「貸したい」「売りたい」意向が増えた理由として、自身の土地（資産）を運用し、収入（収益）を得たいという考えが広がってきた事などが考えられる。また「分からない」意向が増えている事について、返還時期の不透明さが要因の一つと推察される。

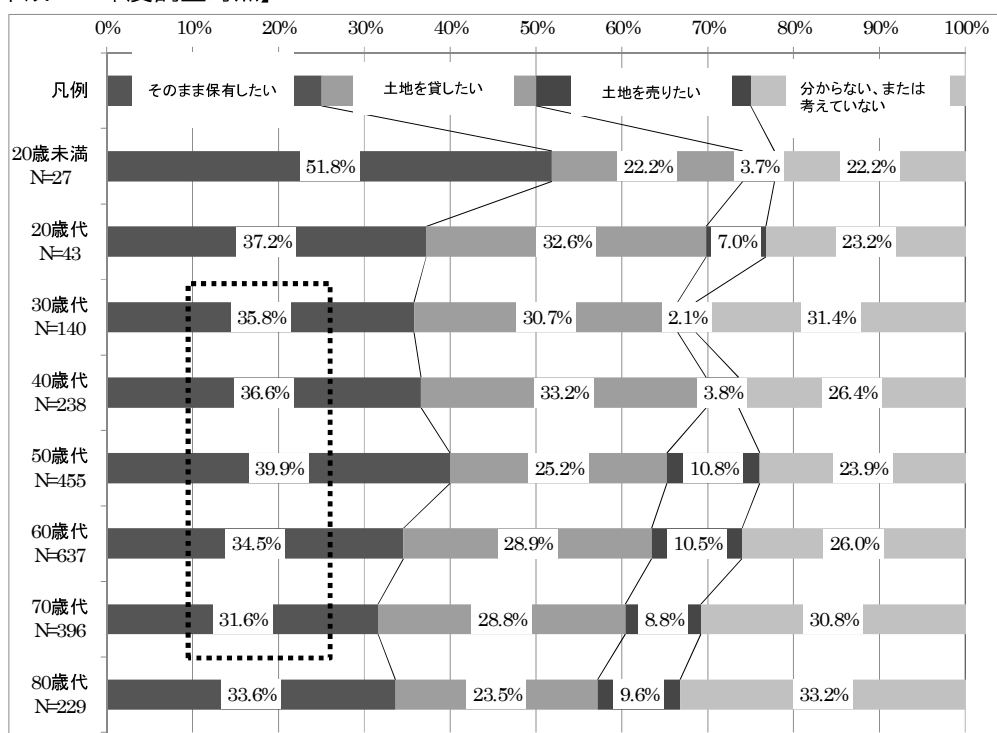
■調査時期別に見た年齢別土地活用意向の推移

【今回】



※N＝回答数

【平成15年度調査時点】



※N＝回答数

【考察】

- ・ 今回のアンケート調査では、40歳代から80歳代で全回答数の9割超を占める。そのため、平成15年度調査時点における30歳代から70歳代の世代がほぼスライドして今回

の40歳代から80歳代になっているものと想定し、平成15年度調査時点と今回の年齢別土地活用意向の推移を見てみると、「土地をそのまま保有したい」から「土地を貸したい」に意向が変化している事が分かる。

- ・これに関しては、資産運用の視点や返還時期の不透明さなどから土地活用に対する考え方が変わってきているものと推察される。今後も定期的な調査が必要と考える。

注) グラフ及び集計結果の文面における表現について

土地を貸したい＝「自分で土地を貸して収入を得たい」＋「地主が共同で企業等に土地を貸して収入を得たい」

土地を売りたい＝「民間企業に売りたい」＋「県や市に売りたい」
として取り扱っている。

【アンケート総括】

アンケートの全体回収率は30.3%（うち市内回収率では27.8%）という状況であり、配布数の増や質問・回答がまだ複雑と感じられた事などから、過去（平成15年度：70%、平成23年度：33.6%）と比較して低かったと考えられる。

また、現時点で普天間飛行場の返還時期が明確になっていない事もあり、「まだ先の話」という意識を地権者が持っている事も要因の1つとして考えられる。

①の「全体計画の中間とりまとめ配置方針図について」では、肯定的な意見が約6割を占めているが、「分からない」という回答も3割超あった。地権者としては、大まかな配置方針では判断しづらく、自身の土地がどうなるか分からない事や跡地利用計画がより具体化された段階で判断する傾向にある事から、跡地利用計画の検討を進めながらより具体的なイメージや考え方を地権者へ提供できるよう取り組んでいく必要がある。

②の「将来のまちづくりを考える上での重要項目について」では、「交通に便利なまちづくり」が最も多い結果であり、現状の交通事情に不便さを感じている方が多く、返還後は交通問題の解消を望んでいると考えられる。今後の跡地利用で、鉄軌道を始めとする新たな公共交通体系及び広域幹線道路の整備等により慢性的な交通渋滞の解消が期待される所である。

調査時期別の土地活用意向としては、全体的に「土地を貸したい」、「土地を売りたい」の割合が増加している傾向にある事から、資産活用し、収入を得たいという意識が過去と比較して高まっていると考えられる。

今回のアンケートでは、現時点における地権者の大まかな土地活用意向と、跡地利用計画の検討内容に対する意見を調査したが、今後も引き続き地権者の土地活用意向に関するアンケートを継続して実施し、必要な部分は跡地利用計画に反映していくなど、より良い跡地利用計画を地権者と共に作り上げていくべく取り組みを進めていく必要がある。

2-4. 「先進地視察」の成果と課題

取組み方針①：若手の会及び NB ミーティング合同での勉強会や先進地視察会等の継続実施による組織間の連携強化と議論の深化。

(1) 先進地視察会

【取組みのポイント】

普天間飛行場の跡地利用に向けて、若手の会と NB ミーティングにおけるまちづくりの先進情報の収集・蓄積及び議論の深化を図る事や両組織の交流により、地域連携の仕組みづくりに資する事を目的として先進地視察会を実施する。

今年度は、防災・減災のまちづくりの視点を学び、(仮称) 普天間公園の整備の考え方を今後学んでいくにあたってのヒントを習得する事、また、まちの価値を高める取組みのヒントを習得する事を目的として、「防災のまちづくり」「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」をテーマとして実施した。

また、視察会の中で、若手の会と NB ミーティングの合同勉強会も実施し、両組織間の知識の習得及び今後の議論の深化を図る。

【概要】

●先進地視察会

○開催日時：平成 28 年 11 月 24 日（木）～11 月 26 日（土）

○視察場所及び視察テーマ

①宮城県石巻市内

テーマ「防災のまちづくり」

②仙台駅東エリアマネジメント協議会（宮城県仙台市）

テーマ「エリアマネジメントによるまちの魅力づくり」

○参加者：12 名（若手の会 9 名、NB ミーティング 2 名、地主会事務局 1 名）

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●防災まちづくりの視点と防災に対する市民の意識の変化を学ぶ事ができた。

- ・ 防災のまちづくりを進めていく上での視点や留意すべき事項、また、地域住民との意向のすり合わせの重要性等について学ぶ事ができた。
- ・ 東日本大震災前後の、市民（地域住民）のまちづくりに対する意識の変化を学ぶ事ができた。

●まちの魅力づくりのための取組み方についてヒントを得る事ができた。

- ・ 実際にまちを歩き説明を受ける事で、産官学民が協働してまちの魅力を高めていく取組み方についてヒントを得る事ができた。

【今後の課題】

- 防災まちづくり、また、まちの魅力づくりのための取組み方について、より深い検討が今後必要である。
- ・今回視察で学んだ防災まちづくりの視点を、跡地利用計画にどう反映する事ができるか、現在の跡地利用計画策定段階における防災の考え方を学んだ上で、若手の会及び NB ミーティングの中で検討を深めていく事が今後必要である。
- ・地権者だけではなく各種利害関係者が協働してまちの魅力づくりに取り組んでいくにあたっては、まちづくりの序盤から魅力づくりの検討を進めていく事が望ましいが、そのための具体的な進め方や役割分担等について、より深く検討を進めていく事が今後必要である。



写真：石巻市佐須地区(1 日目)



写真：エリアマネジメントの説明 (2 日目)



写真：仙台市内まちあるきのようす① (2 日目)



写真：仙台市内まちあるきのようす② (2 日目)

(2) 若手の会・NB ミーティング合同勉強会

【取組みのポイント】

若手の会と NB ミーティングは、地権者・市民の検討組織としてそれぞれ跡地利用等に関する検討を行っている。そのため、さらなる組織間の連携強化や、立場が異なる中での意見をそれぞれの検討に活かす事を目的として、若手の会・NB ミーティングの合同勉強会を先進地視察会の中で開催する。

【概要】

●若手の会・NB ミーティング合同勉強会

○開催日時：平成 28 年 11 月 25 日（金）16：30～18：00

○開催場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口会議室

○内 容：①これからのエリアマネジメントのあり方

②防災のまちづくり

○講 師：増田 聡（東北大学教授）

○参 加 者：12 名（若手の会 9 名、NB ミーティング 2 名、地主会事務局 1 名）

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

●現在のエリアマネジメントの動向やあり方に関する知識を習得できた。

- ・全国のエリアマネジメントの動向、エリアマネジメントに対する時代の要請事項とその要素、社会的意義などについて講義を受け、基礎的な知識の習得を図る事ができた。

●東日本大震災の事例を踏まえ、防災まちづくりを進めていくにあたっての課題や留意事項等を知識として習得できた。

- ・東日本大震災の被災状況から、震災前における各種計画の問題点や地域住民の地域防災に関する意識の変化など事例を踏まえ、防災まちづくりに関する課題や留意事項等を習得できた。
- ・宮城県内で広域防災拠点として現在検討が進められている地域の課題等を踏まえ、広域防災拠点の位置づけを行うにあたっての留意事項等について基礎的な知識の習得を図る事ができた。

【今後の課題】

- ・合同勉強会で習得した知識をもとに、現在の跡地利用計画策定に向けた取組みを踏まえた上で、防災まちづくりの視点やまちの魅力づくりを跡地利用計画にどう活かしていくか検討を進めていく必要がある。



写真：合同勉強会のようす①



写真：合同勉強会のようす②

2-5. 「懇話会の開催」の成果と課題

取組み方針①：合意形成活動全体についての評価・検証を行う場の継続。

取組み方針②：合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施。

取組み方針③：若手の会、NB ミーティング両組織が活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。

(1) 懇話会の開催

【取組みのポイント】

跡地利用に向けた合意形成活動は、長期的な視点で継続して議論を深めていく必要があるため、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」にて本業務の進捗状況の報告や活動成果の検証等を行う。

今年度は平成 27 年度に引き続き、アンケート調査の設問内容や回収率向上のための工夫等について検討を行った。

また、若手の会、NB ミーティング両組織の活動を進めていく中で現在生じている課題等に対する検討を行い、各々の組織にフィードバックさせて議論の深化を図るなど、組織の課題解決に向けた取組みを実施して、今後の着実な合意形成活動に繋げていく。

【概要】

回数	開催日時	議題
第 1 回	平成 28 年 7 月 25 日(月) 17:30~19:30	①地権者の土地活用意向調査について
第 2 回	平成 28 年 8 月 31 日(水) 17:30~19:30	①地権者の土地活用意向調査について
第 3 回	平成 28 年 12 月 5 日(月) 17:30~19:30	①若手の会・NB ミーティングの抱える課題について
第 4 回	平成 29 年 3 月 8 日(水) 17:30~19:30	①NB ミーティングの抱える課題について（フィードバック） ②若手の会の抱える課題について

【取組み成果と今後の課題】

【取組み成果】

- アンケート調査票回収率向上のための検討を行った。
 - ・若手の会での検討結果も踏まえながら、昨年度に引き続きアンケート調査回収率向上のための検討を行った。
- 若手の会、NB ミーティング両組織の抱える課題解決に向け、一定の方向性を示す事ができた。
 - ・会員増に向けた取組み方策や会のあり方等、両組織の抱える課題について、懇話会メンバー間での情報の共有と課題解決に向けた検討を行う事ができた。また、その結果を各組織に持ち帰って再度両組織の中で検討する事により、議論の深化を図ると共に課題解決に向けた一定の方向性を見出す事ができた。

【今後の課題】

- 合意形成活動に係る継続した議論を実施していく必要がある。
 - ・今年度は若手の会と NB ミーティングの評価・検証を行ったが、今後は地権者全体、市民全体の合意形成に関する活動の評価・検証を実施する場面が出てくる事が考えられる。そのため、今後も継続して懇話会を開催し、合意形成を進めていく上での方向性等についての議論を進めていく必要がある。

2-6. 今年度の成果と今後の課題

平成27年度調査で挙げられていた今後の課題と方向性について、本調査における成果と引き続き検討を要する事項を以下に再整理する。

項目（平成27年度調査）		平成27年度調査で挙げられていた課題・方向性		本調査における成果		今後も引き続き検討を要する事項	
地権者に係る事項	若手の会の活動	・組織・体制の見直し、強化の検討 ・地主会との連携方策 ・跡地利用の理想像検討	－ － －	・現在抱えている課題の解決に向けて取り組む事ができた	－	・組織体制、組織拡大のための取組み方策について継続して検討する必要がある	・引き続き検討が必要である
				・地権者側の立場で、アンケート調査回収率向上のための検討を行った	－	・防災まちづくり、また、まちの魅力づくりのための取組み方について、より深い検討が今後必要である	
				・先進地視察会に参加し、防災まちづくりの視点と防災に対する市民の意識の変化を学ぶ事ができた	－	・習得した知識をもとに、現在の跡地利用計画の策定に向けた取組みを踏まえた上で、防災まちづくりの視点やまちの魅力づくりを跡地利用計画にどう活かしていくか検討を進めていく必要がある	
				・若手の会、NB ミーティング合同勉強会を開催し、現在のエリアマネジメントの動向やあり方に関する知識を習得できた	－	・地主会と調整しながら実施する必要がある	
				・東日本大震災の事例を踏まえ、防災まちづくりを進めていくにあたっての課題や留意事項等を知識として習得できた	－	・回収率向上のための取組みを今後検討していく必要がある	
市民に係る事項	NB ミーティングの会の活動	・継続した意見交換会の実施 ・意見を出しやすい雰囲気づくり、集まりやすい会場選定と周知の工夫、より多くの地権者が参加するための工夫	－ － －	・「市民の声」の収集及び集約を図る事ができた	－	・知識の積み上げや目標設定など、充実感を得られる仕組みづくりの構築を進める	・まとまった段階で更新を行う
				・企画やまち未来だよりで広報を行うと共に、会員が自主的にNB ミーティングの周知活動を行った	－	・継続して定例会参加者を増やし、議論の活性化を図っていく取組みが必要である	
				・「市民の声」の収集及び集約を図る事ができた	－	・イベントの継続的な実施に向けた取組みを継続して行う必要がある	
				・活動方針の共通認識を図る事ができた	－	・組織の基礎固めを進めていく必要がある	
				・先進地視察会に参加し、防災まちづくりの視点と防災に対する市民の意識の変化を学ぶ事ができた	－	・防災まちづくり、また、まちの魅力づくりのための取組み方について、より深い検討が今後必要である	

項目（平成27年度調査）		平成27年度調査で挙げられていた課題・方向性	本調査における成果	今後も引き続き検討を要する事項
市民に係る事項	一般市民	世代交流ディスカッション 向上	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的な場でのNBミーティングのPR、活動周知、認知度向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な実施体制の検討が必要である
	若い世代間の意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した取り組み ・最終的な学生意見のとりまとめ ・一般参加者を増やし意見を聞くため、大学と連携して周知や講義と合わせての参加を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の跡地利用計画に対する啓発に繋がった ・市民参加型によるまちづくり検討の土台作りに繋がった ・NBミーティングの活動に直結する成果に結びついた 	
情報発信	ふるさとの発行	<ul style="list-style-type: none"> ・時期を捉えた的確な情報発信を継続して行う ・分かりやすさの工夫、親しみやすさ等含めて継続して検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点における合意形成活動の取組み情報を提供できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携方策について引き続き検討が必要である ・時期を捉えた的確な情報発信を継続して行う ・見易さ及び分かりやすさの工夫など、継続して検討していく必要がある
	まち未来だよりの発行	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した発行を行うとともに、情報誌を通じたイベント開催案内や活動結果報告を行い、市民の参加・協力を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地利用に向けた取組みに関する情報を提供できた ・視覚的な見やすさの向上と、より広範囲への情報発信が可能となった 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して発行していく必要がある ・情報誌を通じた各種活動の開催案内や活動結果報告等を行い、市民の参加、協力を促していく事が求められる
	ホームページ更新	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の継続、分かりやすさを重視した見せ方の工夫等 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い情報提供に繋がった 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して実施する必要がある ・分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後検討が必要である
評価及び検証	懇話会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・会としての位置づけ及び機能について改めて共通認識を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の会、NB ミーティング両組織の抱える課題解決に向け、一定の方向性を示す事ができた ・アンケート調査票回収率向上のための検討を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成活動に係る継続した議論を実施していく必要がある
		<ul style="list-style-type: none"> ・段階的に（仮）ゆめ会議設立に向けた取組みを進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の会、NB ミーティング両組織の成長具合と、跡地利用計画策定時期を鑑みながら、しかるべき時期に実施する

次年度以降は、上記記載の今後も引き続き検討を要する事項についての対応方策も踏まえて検討を進めていく必要がある。

【次年度以降の活動内容（案）】

前述した今後の課題の解決に向け、「地権者」、「市民」、「情報発信」、「評価及び検証の場」のそれぞれに対して、下記の考え方に従って次年度以降の合意形成活動を進めていく事が望ましいと考える。

①地権者に係る取組み

一般地権者に対する情報提供及び直接的な対話の場、若手の会の考えの発表の場として、字別意見交換会を継続して実施し、開催にあたっては「参加しやすい雰囲気づくり」を重視し、より多くの地権者の参加を促していく。

若手の会に関しては、地主会役員との意見交換会や会の組織体制及び拡大のための取組み方策等について検討を進めていく。また、地主会未加入者への対応としても、後述するふるさと発行やホームページ等、情報を継続して発信する必要がある。

活動内容（案）

- ・ 字別意見交換会の開催
- ・ 若手の会定例会活動支援

②市民に係る取組み

NB ミーティングが主体となり、普天間飛行場返還後の跡地利用に繋がる市民の声を集めるイベントを実施し、市民の跡地利用に対する意向醸成や情報発信を行う。

また、NB ミーティングの活動周知と会員加入の呼びかけを合わせた、地域団体向け出前PRの内容を現在検討していることから、その実施に向けた取組みを進め、会員の獲得に繋げていく。

活動内容（案）

- ・ 跡地利用のまちづくりに繋がる市民の声集めイベント開催
（過去と未来の語り場、NBM まちづくり分科会の継続を想定）
- ・ 地域団体向け出前PRの実施
- ・ NB ミーティング定例会活動支援

③情報発信に係る取組み

跡地利用計画及び意向醸成活動に関する情報を継続して発信し続け、地主会未加入者や市民等に対し広く情報提供を行う。その際、跡地利用計画の進捗状況等を鑑みて適切な時期に発行していく事に留意する。

活動内容（案）

- ・地権者支援情報誌「ふるさと」の発行
- ・まち未来だよりの発行
- ・宜野湾市ホームページの更新

④評価及び検証の場に係る取組み

今後も引き続き合意形成活動に係る継続した議論を進めていく事とする。

議題及び進め方については、若手の会及びNB ミーティングの抱える課題に対して意見交換を進めていくと共に、跡地利用計画の策定状況に応じて懇話会メンバーを随時増員させるなど、柔軟な対応を行うものとする。合わせて、返還後の事業化検討段階に向けて、懇話会メンバーの知識の底上げを図るために、土地区画整理事業や土地活用方法など、まちづくり手法の内容に関する勉強会を懇話会メンバーで開催する事も望ましい。

活動内容（案）

- ・懇話会の開催

⑤先進地視察会の実施

上記①～④に加え、地権者側の組織である若手の会、市民側の組織であるNB ミーティング両組織に対し、まちづくり先進情報の収集、蓄積並びに議論の深化を図ると共に組織間の連携強化を図るため、継続して先進地視察会を実施する。

若手の会に関しては今年度も新メンバーが参加している事からも、若い世代及び新規会員を中心として視察メンバーを構成するよう留意する事が望ましい。また、過去の視察会の知識を事前に学習した上で実施し、視察会終了後は跡地利用計画にどう活かせるかを考えて両組織でフィードバックを行う事により、より効果的な知識習得に繋げていくものとする。

合わせて、可能ならば視察会の中で合同勉強会を開催する事も視野に入れて視察テーマや候補地を検討する事が望ましい。

活動内容（案）

- ・先進地視察会の実施